

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年2月12日（月）～令和6年2月18日（日）〔令和6年第7週〕の感染症発生状況

第7週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) インフルエンザ 2) 新型コロナウイルス感染症 3) 感染性胃腸炎でした。

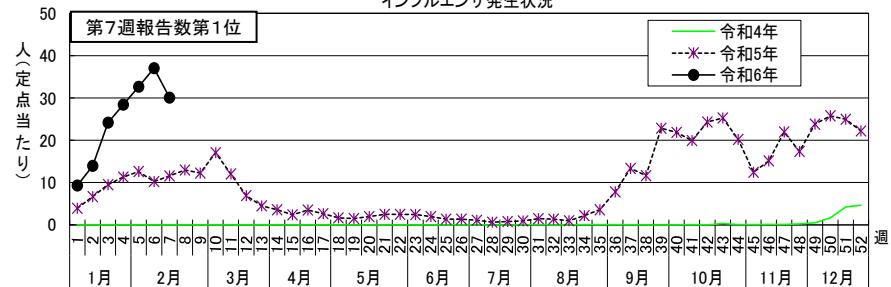
インフルエンザの定点当たり患者報告数は30.08人と前週(37.03人)から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は7.48人と前週(11.48人)から横ばいでました。

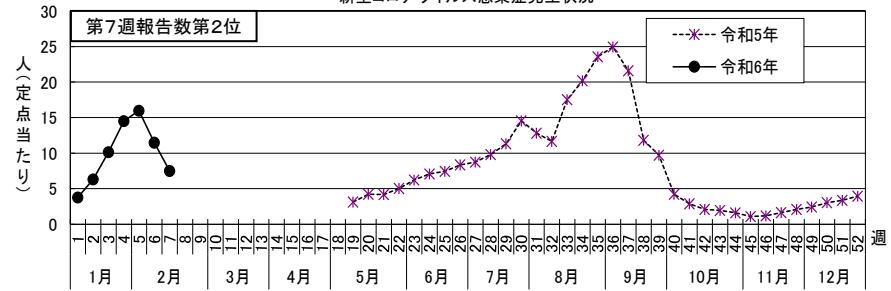
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.78人と前週(6.64人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



インフルエンザ発生状況



新型コロナウイルス感染症発生状況



感染性胃腸炎発生状況



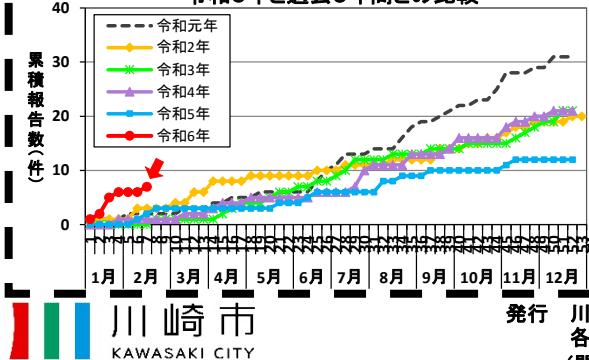
～レジオネラ症の報告数が増加しています！～

レジオネラ症は、水中や土壤中等に生息するレジオネラ属菌を原因とする細菌感染症で、通常は夏から秋にかけて患者報告数が増加します。しかし、川崎市における令和6年のレジオネラ症の報告数は、第7週(2月12日～18日)までに計7件と、冬にもかかわらず増加がみられています。

病型は、重症の肺炎を引き起こすレジオネラ肺炎と、一過性の風邪様症状を呈するポンティアック熱に大別され、レジオネラ肺炎は38℃以上の高熱や咳に加え、意識障害等を伴い重症化する例もみられます。特に高齢者は肺炎を起こす危険性が通常より高く、急速に症状が進行して死に至ることもあります。

治療には早期の抗菌薬投与が有効ですので、発熱や咳に加え呼吸困難や下痢等がみられる場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

川崎市におけるレジオネラ症の累積報告数の推移
—令和6年と過去5年間との比較—



レジオネラ症とは？



【主な症状】

- ・レジオネラ肺炎
⇒発熱、咳、呼吸困難、意識障害、下痢等
- ・ポンティアック熱（肺炎にならない自然治癒型）
⇒突然の発熱、インフルエンザ様症状等

【潜伏期間】

2～10日間

【感染経路】

レジオネラ属菌に汚染されたエアロゾル（空気中に浮遊している粒子）を吸引することにより感染
※浴槽水や加湿器の水等は新しいものを使用し、清潔を保ちましょう。また、高圧洗浄等、エアロゾルが発生する作業ではマスクを着用しましょう。

※人から人に感染することはありません。

